

政策の柱
政策基盤

輝く滑川

政策 学校教育の充実 21 ・教育のデジタル化

主管課

教育総務課

関係課

D×推進課

SDGs 関連分野



★ 政策の目指す姿

生きて働く知識及び技能に加え、学ぶ意欲や、自ら課題を見つけ、学び、主体的に判断・行動し、問題を解決する「確かな学力」が向上し、「生きる力」が育まれている。

★ 政策の達成目標

指標名	現状値 (R6)	目標値 (R12)
全国学力・学習状況調査の結果について		
全国平均を上回った教科数	小学校 0 中学校 2 (国語・数学)	⇒ 全教科
「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」に関して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合	小学校 76.5% 中学校 78.5%	⇒ 85%

★ 政策の基本方針（課題と方向性）

現状・課題	方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 「ものづくりのまち滑川」の将来を支える人材の育成が求められています。 ● 新たな学習指導要領が全面実施となり、「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業の実施、小学校における英語の教科化、プログラミング教育の必修化等、教育内容が変化しています。また、個別最適化され創造性を育む教育に取り組むため、デジタル学習環境を効果的に活用する必要があります。 ● 教育職員の勤務時間外の在校等時間が1か月45時間を超えないことが国で定められ、学校の働き方改革に取り組む必要があります。 ● すべての子どもが平等に教育を受ける必要がありますが、経済的な理由等により就学に困難を抱える児童生徒がいます。 ● 通学区域の小中学校より近い小中学校があるが、遠方の小中学校に通学することもあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 体験的な活動や問題解決的な学習を重視した探究・科学教育を推進します。 ● 学習指導要領を踏まえた外国語科等の教科やキャリア教育等を小中一貫で展開することで確かな学力の向上に努めます。また、児童生徒に1人1台分の端末を整備し、デジタル学習環境を活用した魅力的な授業や学習を展開します。 ● デジタル学習環境の活用等による業務改善を推進し、子どもと向き合う時間を確保するとともに、今日的な課題に対応した研修を企画・運営し、指導力の向上を図ります。 ● 経済的な理由等により困難を抱える児童生徒のために、様々な支援制度や相談体制を構築します。 ● 事情によって、指定学校以外の学校への通学もできるように、令和5年度末に指定校変更制度の運用を見直しました。今後も適宜見直しを実施します。

★ 政策の個別計画・関連する計画

個別計画	滑川市教育大綱
------	---------

★ 政策の内容

① 科学・理数・ものづくり教育の推進

指標名		現状値	目標値 (R12)
科学の時間が好きな児童生徒の割合	小学校	(R6) 91%	⇒ 95%
	中学校	(R6) 85%	⇒ 90%

(主な取組)

- 全小中学校で特別の教育課程「科学の時間」を実施し、地元企業や団体と連携し、科学・理数・ものづくり教育を推進します。
- 理科専科教員や観察実験アシスタントを配置し、実験・実習・体験的活動を通して児童生徒が、科学やものづくり、エネルギー教育、STEAM教育（科学、技術、工学、芸術、教養、数学を統合する教育手法）に興味関心をもち、科学的な見方や考え方を身に付ける教育家庭の充実を図ります。
- 地域の自然や歴史、先人の業績等を教材化した副読本を活用し、児童生徒がふるさと滑川への愛着と誇り、感動や感謝の心の育成を推進し、地域へ貢献する意欲を高めます。

② 魅力ある授業づくりの推進

総合戦略 ③

指標名	現状値	目標値 (R12)
授業にデジタル学習環境を活用して指導する能力に関して「できる」、「ややできる」と回答する教員の割合	(R6) 76.1%	⇒ 100%

(主な取組)

- 外国語教育の充実のために、各校に英語専科教員、ALT、英語活動支援員を配置し、まとまりのある英語を理解したり表現したり伝えたりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成に努めます。
- デジタル学習環境を活用した授業を展開するために、各校にICT支援員を配置します。
- 外部からデジタル専門人材を招へいし、児童生徒が1人1台端末を使用し、学びやすい環境の整備や更なる活用方法の強化に努めます。
- 児童生徒が社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するための困難を乗り越える力を育むキャリア教育を推進します。
- 各学校において地域の人・もの・自然・文化を活かした教育課程を編成し、特色ある学校づくりを推進するとともに、より良い社会を形成する資質・能力の育成を図ります。
- 多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びの促進のために、AIドリルを活用することを検討します。
- プログラミング教育を推進し、論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成に努めます。
- 指定校変更制度について、個々の事情により、これまでより柔軟に対応できるように努めます。



← 授業の様子

③ 学校の働き方改革等による教育の質の向上

指 標 名	現状値	目標値 (R12)
教材研究や校務等にデジタル学習環境を活用する能力に関して「できる」、「ややできる」と回答する教員の割合	(R6) 88.6%	⇒ 100%

(主な取組)

- 出出勤機能を有するグループウェアを導入し、教育委員会側で一括して教職員の勤務実態を把握することで、勤務実態に応じた指導助言や面談を行う等、業務改善を図ります。
- 学校の閉庁日を平日5日以上となるよう努めます。
- 教職員全体で勤務時間を意識し、より短い時間で効率を上げる働き方ができるようにICTの一層の活用等、改善方法を調査・研究します。
- 滑川市部活動ガイドラインを作成し、取り組めます。
- 令和7年度から学校運営協議会を各学校に設置し運営していきます。
- 中学校の土日部活動の地域移行化や部活動指導員の配置等、教員の働き方改革や生徒にとって望ましい持続可能な部活動環境を構築します。

④ 就学支援体制の充実

指 標 名	現状値	目標値 (R12)
不登校児童・生徒数	(R6) 126人/年	⇒ 0人/年

(主な取組)

- 不登校児童・生徒を出さない学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒への支援ために市教育支援センター「あゆみ」や校内教育支援センター「ほっとルーム」を開設する等、不登校児童・生徒が主体的に社会的自立や学校復帰に向かうよう支援します。
- オンラインで経済的な支援が必要な児童生徒や不登校児童生徒へ大学生が学習支援する「オンラインなめりかわ塾」を開催する等、オンラインを活用し、児童生徒の孤立化防止に努めます。
- 児童の人権にかかわるいじめ、非行、暴力等や社会的に許されない行為を未然に防止するとともに、よりよく生きるための基礎となる道徳教育の強化や望ましい人間関係の醸成に努めます。
- 心に悩みや不安を持つ児童生徒や特別な支援が必要な児童生徒に対して、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーを小中学校に配置し、相談体制の充実を図るとともに、学校と保護者が連携し一人ひとりに応じたきめ細かな指導支援に努めます。
- 経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者に、学用品費や給食費、就学旅行費等を支給します。
- 経済的理由により高校・大学等へ就学困難な者に対し、奨学金を給与・貸与します。
- 家庭環境や発達面、障がい等、様々な要因から就学に困難さを抱える児童生徒に対し、幼保小や関係機関が連携して早期からの支援に取り組めます。
- 特別支援教育体制の充実を図るため、各校にスタディ・メイトを配置するとともに、個別の教育支援計画作成のための教育ソフト「LITALICO」を導入し、一人ひとりに応じた支援に取り組めます。

★ 協働の視点 (市民・事業者等の役割)

市民・団体	地域教材を活用した授業や学校行事の充実のための学校との連携・協働
事業者等	教育委員会や学校との連携による企業見学、出前授業、自然観察等の体験的な学習の実施



↑ オンライン学習



↑ 科学の時間(工場見学の様子)

政策の柱
政策基盤

輝く滑川

SDGs 関連分野



政策 22 青少年健全育成
・地育地生の推進

主管課 生涯学習・スポーツ課

関係課 教育総務課

★ 政策の目指す姿

地域や社会全体で家庭教育を支援し、青少年を見守る体制が整備され、青少年の健全育成が推進されている。

★ 政策の達成目標

指標名	現状値 (R7)	目標値 (R12)
地域人材（青少年）を活用した市の取組数	—	⇒ 5件/年

★ 政策の基本方針（課題と方向性）

現状・課題
<ul style="list-style-type: none">● 家庭や地域の教育力の低下、貧困や青少年を取り巻く社会環境の変化等が複雑に絡み合い、非行、不登校、いじめ、ひきこもり、児童虐待等、様々な問題とともに、青少年の社会的自立の遅れといった課題が生じています。● 犯罪の低年齢化やSNSの普及に伴うネットによる犯罪やいじめ等、問題行動が大人の目に見えにくくなってきています。

方向性
<ul style="list-style-type: none">● 家庭の教育力の向上や青少年が地域との関係性を深める取組を進めます。● 青少年が犯罪に巻き込まれないよう、家庭・青少年への正しい情報提供や、家庭・地域・学校の連携により、青少年を見守る体制の整備を図ります。

★ 政策の個別計画・関連する計画

関連する計画
滑川市教育大綱、滑川市子ども・子育て支援事業計画

★ 政策の内容

① 家庭教育力の向上

指標名	現状値	目標値 (R12)
親学び・子育て講座開催校(園・所)数	(R6) 市内小中学校 9校 市内認定こども園 2園	⇒ 市内小中学校 9校 市内保育所・ 認定こども園 4施設

(主な取組)

- 「親を学び伝える学習プログラム」等の講座と、家庭教育力向上のための講演会を開催します。
- 正しい情報モラルの周知やSNSトラブルに巻き込まれないよう、各家庭への情報提供や啓発活動を行います。

② 地育地生の推進

指標名	現状値	目標値 (R12)
青少年の補導件数	(R6) 0件/年	⇒ 0件/年
地域学校協働活動推進協議会設置数	(R7見込) 0校	⇒ 9校 (全校)

(主な取組)

- 少年補導センターや青少年育成滑川市民会議を中核とした挨拶活動や巡回活動等を推進します。
- 学校や公民館、各種団体等と連携し、体験活動や奉仕活動、地域との交流活動等への青少年の参加促進を行います。
- 薬物乱用防止教室や社会を明るくする運動を推進します。
- 青少年の健全育成を推進する施設を整備します。
- 青少年関係機関・児童クラブ等の団体とのネットワークを生かし、情報交換を行います。
- 子どもサミットを開催し、人と人との繋がりやまちの将来についての意見交換を通して、社会の一員としての自覚を促します。
- 地域学校協働活動を進めるための体制整備を行い、地域人材の育成や参画を推進します。
- 放課後子ども教室等の放課後の学びの場の充実のために、地域人材を発掘し活用します。
- 小中学生等に対し、自分たちで課題を発見し解決するための能力を養うことや、市内企業との関わり等を通して、滑川での「楽しい」という思いを体験することにより、自分たちの力でより良い「滑川」の未来を創る力を養う「なめりかわ未来学校」を実施します。

★ 協働の視点 (市民・事業者等の役割)

市民・団体	挨拶等を通じた青少年への積極的な関わり 地域の行事への積極的な参加 地域での青少年の見守り
事業者等	通学児童・生徒・市民への挨拶活動





政策
23

生涯学習の充実

主管課

生涯学習・スポーツ課

★ 政策の目指す姿

生涯にわたり自ら学び続け、学んだことを活かして地域で活躍することで人生を豊かにできるという意識が浸透し、学びを通じた生きがいや喜びが育まれている。

★ 政策の達成目標

指 標 名	現状値 (R7)	目標値 (R12)
地域人材を活用した市の取組数	—	⇒ 20件/年

★ 政策の基本方針（課題と方向性）

現状・課題	方向性
<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習講座等の参加世代に偏りがあります。 いつでも、どこでも、誰もが、自ら気軽に学べるよう、図書館の環境整備や、子ども図書館における魅力あるイベントの開催等に取り組んでいますが、市民が学びやすく活動に参加しやすい環境、興味・関心をもって学ぶことができる機会の提供が求められています。 自分の特技を活かしながら子どもと関わることができ、生きがいとなる場が求められています。 滑川の魅力を理解し、郷土に誇りをもつことが、未来の滑川市を支えていく上で大切です。 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢・性別・職業に関係なく、生涯自ら学ぶことで、自分のキャリアを切り開くことや、人生を豊かにできることを広く理解してもらえるよう取組を進めます。 市民の各年代のニーズをとらえ、各生涯学習施設及び地域の人材を有効に活用し、生涯学習の場や機会を提供していきます。 生涯学習で得た知識や経験・技術を子どもたちと関わり合いながら地域社会で活かす体制づくりに努め、地域活動や地域学校協働活動への参画を促します。 滑川の魅力に触れ、学ぶ機会を提供します。

★ 政策の個別計画・関連する計画

個別計画	滑川市子ども読書活動推進計画
関連する計画	滑川市教育大綱

★ 政策の内容

① 生涯学習活動の推進

指標名	現状値	目標値 (R12)
生涯学習講座登録者数	(R6) 713人/年	⇒ 750人/年
1人当たりの図書貸出し数	(R6) 4.15冊/年	⇒ 8冊/年

(主な取組)

- 市民のニーズをとらえた講師の発掘と生涯学習講座の開設を行います。
- 「生涯学び続け、学んだことを地域で活かしていくことが人生を豊かにする。」ということの啓発と生涯学習情報紙や各種教養講座・教室の子ラシ等を利用した生涯学習活動をPRします。
- 社会教育団体の育成強化を行います。
- 地域住民が気軽に参加できる行事・レクリエーションを行います。
- 生涯学習施設や学校等を市民に広く開放し、生涯学習の場を提供します。
- 学校との連携等による図書館・子ども図書館の利用促進を図ります。
- 地域学校協働活動を進めるための体制整備を行い、地域人材の育成や参画を推進します。
- 県内の大学や専門学校と連携したリカレント教育（社会人の学び直し）を推進します。
- 従業員の学びに対する企業への理解を深める取組を推進します。
- 生涯にわたる図書館の利用促進や読書活動が子どもたちに習慣化されるよう、市内全小学生へ図書利用カードを交付します。

② ふるさと教育の推進

指標名	現状値	目標値 (R12)
ふるさと講座等参加者数	(R6) 4,808人/年	⇒ 5,000人/年

(主な取組)

- 滑川を愛する子どもを育むため、滑川の自然・文化・歴史に関する体験学習等のふるさと教育を充実します。
- 郷土の偉人の功績を周知する事業を開催します。
- 公民館において、ふるさと講座を開催します。
- 姉妹都市交流活動を通じて、郷土の魅力を再発見できるように努めます。

★ 協働の視点 (市民・事業者等の役割)

市民・団体	市民同士のネットワークによる生涯学習に関わる人材発掘への協力 友達や家族、知り合いとの生涯学習講座の受講
事業者等	地域の生涯学習活動への参加促進 体験活動（見学等）への協力





政策
24

文化芸術の振興

主管課

生涯学習・スポーツ課

関係課

企画政策課、水産観光課

★ 政策の目指す姿

市民が文化や芸術に触れる機会が充実し、生活の潤いや心の豊かさを実感できている。

★ 政策の達成目標

指標名	現状値 (R7見込)	目標値 (R12)
文化財や地域の伝統継承への取組に対する事業の数 (博物館の充実や活動支援等)	10件/年	⇒ 10件/年

★ 政策の基本方針（課題と方向性）

現状・課題	方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 博物館をはじめとする施設において、地域の歴史・文化芸術等に気軽に親しめる多様なイベントを開催していますが、さらなる機会の充実が必要です。 ● 史跡や文化財について、地域住民でも知らない人が多いため、周知する必要があります。 ● 地域の伝統行事については、担い手不足が課題となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の芸術文化団体とともに、成果発表や文化芸術に気軽に触れる機会を提供します。 ● 市内に所在する各種文化財について調査研究を行い、次世代へ保存継承し市民に周知していくための施策を展開します。 ● 地域の伝統行事の後継者の育成について保存団体の活動を支援し、運営サポートを行います。 ● 伝統芸能・伝統文化等の児童生徒への伝承に努めます。

★ 政策の個別計画・関連する計画

関連する計画	滑川市教育大綱
--------	---------

★ 政策の内容

① 文化芸術に触れる機会の充実

指 標 名	現状値	目標値 (R12)
市立博物館の小学校への出前講座、音楽教室・音楽鑑賞事業の参加者数	(R6) 1,449人/年	⇒ 1,500人/年

(主な取組)

- 優れた演奏、演劇、舞踊等を招致したり、市内文化芸術団体へ支援を行います。
- 郷土への関心を深める展覧会を開催する等、博物館を拠点とした文化芸術活動を推進します。
- 学校と図書館・子ども図書館・博物館・市文化スポーツ振興財団等との連携を図り、子どもたちが文化芸術や文化財に触れる機会を増やします。
- 文化芸術活動を行う環境の整備を図ります。
- 昔の遊びに触れる機会を設けます。
- 文化ホール建設に向けた基金の積立を継続するとともに、設置の是非も含め、文化ホールのあり方について、市民や関係者との対話を通して検討します。

② 文化財と伝統芸能の保護と活用

総合戦略 ②

指 標 名	現状値	目標値 (R12)
市内所在文化財 (国指定・県指定・市指定・国登録)	(R7見込) 53件	⇒ 55件

(主な取組)

- 文化財の保存・調査・研究を行い、指定・登録等を進めます。
- 史跡環境整備を行い、看板を設置する等、周知を図ります。
- 滑川のネブタ流しや新川古代神踊り、松坂踊り等、地域の伝統芸能・伝統文化等の保存継承に必要な団体支援や後継者育成支援を行います。
- 滑川のネブタ流し等、伝統行事への市民の参加を促進します。
- 滑川市の先人である高階哲夫や高島高等の功績を顕彰し、それらを活かした文化芸術の振興によるまちづくりを推進します。

★ 協働の視点 (市民・事業者等の役割)

市民・団体	伝統行事への参加 伝統芸能等の保存会の発展、後継者の育成への協力
事業者等	伝統行事への参加・協力



↑ ネブタ流し



政策 25 人が集う魅力的なまちづくりと関係人口の創出

主管課 公民連携課、都市計画課

関係課 企画政策課、福祉課、商工企画課

★ 政策の目指す姿

充実した住環境と魅力あるまちなかが整備され、人が集い、住み続けられるまちとなっている。

★ 政策の達成目標

指標名	現状値 (R6)	目標値 (R12)
滑川市に住み続けたいと思う市民の割合	72%	⇒ 80%

★ 政策の基本方針（課題と方向性）

現状・課題	方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設や店舗、住居等の既存ストックが活用されていないものがあります。特に、増加している空き家は市民生活に悪影響を及ぼすため、一刻も早い解決が求められています。 ● 障がい者等にとっての「障がい=バリア」とは個人ではなく社会にあるものであり、その対策の1つとして、誰もが利用しやすい生活環境の整備が必要とされています。 ● 住宅に困窮する世帯が安心して生活できる環境が必要です。 ● 子育て世代である30代から40代とその子どもを中心とする転入者の増加により、人口動態は社会増が続いていた一方、10代後半から20代の若者の進学・就職を契機とする県外への転出傾向が続いています。 ● 人口減少・高齢化により、まちづくりの担い手が不足しており、こうした現状に即した検討が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既成市街地における既存ストックの有効活用を図ることで、空洞化対策やコンパクトなまちづくりを推進します。あわせて、将来都市構造の考え方を踏まえた適正な土地利用のため、必要に応じて、用途地域の見直しに取り組みます。 ● 誰もが住み慣れた家で生活を継続できるよう、暮らしの最も基本となる住宅の安全性と快適性の向上の促進を図ります。 ● 低廉な入居後の市営住宅等を確保し、低所得者等の安心な暮らしを支援します。 ● 「帰ってきたくなる」、「住みたくなる」まちを目指し、性別や世代等に関係なく選ばれる、魅力的なまちづくりに努め、首都圏等、市外で生活する若者の将来的なUターンに繋がる取組を推進します。 ● 中滑川複合施設「メリカ」をまちなかにおける賑わいの創出と交流人口の拡大、防災の拠点として積極的に活用していきます。 ● 飲食店等の創業希望者を支援し、更なる賑わいの創出を図ります。 ● 公民連携の手法により、ほたるいかミュージアム周辺のベイエリアや漁港周辺、東福寺野自然公園等の整備を検討します。

★ 政策の個別計画・関連する計画

個別計画	滑川市都市計画マスタープラン
関連する計画	滑川市障害者福祉計画、滑川市障害児福祉計画

★ 政策の内容

① まちの魅力の創出

総合戦略 ②

指標名	現状値	目標値 (R12)
中滑川駅複合施設「メリカ」の利用者数	(R6) 213,293人/年	⇒ 250,000人/年

(主な取組)

- 都市計画に基づく計画的かつ適正な土地利用の規制・誘導に努め、必要に応じ、用途地域の見直しを図ります。
- 中滑川複合施設「メリカ」において、指定管理者による効率的な管理運営により、施設の機能を存分に発揮させるとともに、多くの企業や市民が参加しやすいイベント等を企画します。
- 空き家・空き地の適正な管理を促すことで周辺の住環境の保全を図ります。
- 利活用可能な空き家については有効活用の促進を図ります。また、危険老朽空き家については除却への支援を行います。
- 地域おこし協力隊を活用して、本市の魅力を掘り起こします。
- 新しい滑川の実現に向け、共に考え創る場「まちづくり共創会議」を設置し、意欲のある市民、企業と対話を重ねます。
- 安全なまちづくりや空き家の利活用を促進するため、なめりかわ街づくり協議会及び警察と連携を強化します。
- サテライトオフィスの誘致を支援します。
- 空き家・空き地バンクの活用やなめりかわアンバサダーとの連携等を行い、関係人口の創出や滑川市の活性化を図ります。
- 対話によるまちづくりに努めます。また、まちの要素を洗い出し、分析していくことで、そのまちの魅力を言語化した「まちづくり戦略」を策定、各施策を見直すことで、まちの魅力の最大化を図ります。



↑ 中滑川駅複合施設「メリカ」

② 定住施策の推進

総合戦略 ②

指標名	現状値	目標値 (R12)
20代後半から30代にかけての人口の社会動態 (日本人)	(R2~6平均) +34.6人/年	⇒ +35人/年 (5年平均)
民間宅地開発事業補助金交付件数	(R2~6平均) 1件/年	⇒ 2件/年 (5年平均)
空き家・空き地バンクの成約件数	(R6) 10件/年	⇒ 15件/年

(主な取組)

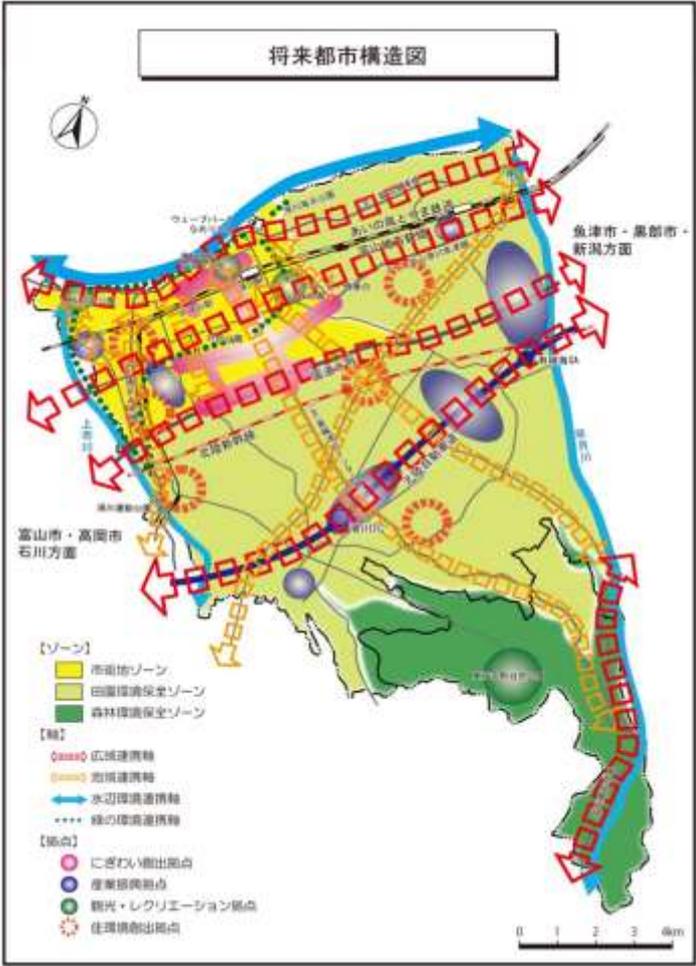
- 民間事業者の優良宅地開発について、公共施設(団地内の道路、公園・緑地・広場等)の整備に要する経費に対し補助金を交付し、良好な宅地供給を促進します。
- 高齢者や障がい者が住み慣れた家で生活を継続できるよう、住宅の改修に要する費用への助成や貸付制度の周知に努めます。
- 個人住宅の耐震改修について情報発信に努めるとともに、改修に要する費用への助成を行います。
- 低所得者等が地域で安心した暮らしを送れるよう低廉な入居費の市営住宅等を確保します。
- 首都圏をはじめとする県外で暮らす若者のUターンを推進する経済的支援策を検討するとともに、市出身者が市と継続的な繋がりを持ち、将来的なUターンのきっかけとなる仕組の構築に取り組みます。
- 定住のきっかけとして、結婚生活のスタートに必要な引っ越し費用等について支援します。
- SNS等を活用し若い女性の声を聴くことにより、若い女性が住みたくなるまちづくりを推進します。
- 空き家相談会を実施する等、市場に出いていない空き家を空き家・空き地バンクを通して、定住に繋がる住宅ストックとして、市場への流通を図ります。
- 住み慣れた家で快適に生活を維持できるよう、また、空き家を住みやすい環境に改修するための費用への助成を行います。

★ 協働の視点 (市民・事業者等の役割)

市民・団体	行政との空き家情報等の共有による住環境の保全 滑川を離れた家族や知人・友人との繋がりへの保持
事業者等	Uターン採用の推進 快適な住環境への改修の促進



↑ まちづくり共創会議



↑ 滑川市都市計画マスタープランより



↑ 空き家・空き地バンク ホームページより



政策
26

潤いのある景観の整備

主管課

都市計画課

関係課

公民連携課

★ 政策の目指す姿

市民が気軽に利用し、安らぎを感じる公園・緑化空間が整備されている。

★ 政策の達成目標

指標名	現状値 (R6)		目標値 (R12)
公園・緑地の整備状況に対する 市民満足度	67%	⇒	70%

★ 政策の基本方針（課題と方向性）

現状・課題

- 市民1人当たりの都市公園面積は、都市公園法の設置面積標準（10㎡/人）を上回っていますが、設置からかなりの年数が経過している公園が多くなっています。
- 生活にゆとりと潤いを与える緑化空間の整備が重要ですが、少子高齢化により担い手が不足しています。



方向性

- 都市公園等の再整備により新たな魅力を創出するとともに、老朽化した公園施設や遊具の計画的な更新・維持管理を行います。
- 地域緑化推進事業を継続し、各種団体へ花苗を配布するほか、緑化活動を推進するボランティアの育成を図り、市民の生活にゆとりと潤いを与える花と緑があふれる滑川を目指します。
- 花や緑により、四季を感じることでできる場所づくりを検討します。
- 公民連携による公園を活用したイベントの開催を検討します。

★ 政策の個別計画・関連する計画

個別計画	滑川市公園施設長寿命化計画
------	---------------

★ 政策の内容

① 公園の再整備と計画的な維持管理の推進

指 標 名	現状値	目標値 (R12)
東福寺野自然公園来場者数	(R6) 28,891人/年	⇒ 40,000人/年
都市公園整備の充実 (老朽施設及び遊具の更新状況)	(R3~7見込計) 23件	⇒ 20件 (5年間)

(主な取組)

- 整備後長期間を経過した公園施設について、再整備や老朽施設の改修等により、新たな魅力を創出します。
- 滑川市公園施設長寿命化計画に基づき、公園施設や遊具の計画的な更新・維持管理を行います。
- 青雲閣機能廃止後の東福寺野自然公園の一体的利用について、公民連携の手法等を用いて検討します。
- 行田公園のハナショウブの生育状況を改善するため施肥や殺菌及び株分けを実施します。
- 環境省の「平成の名水百選」にも選ばれた行田公園の沢清水の魅力発信に努めます。

② 花と緑があふれるまちづくり

指 標 名	現状値	目標値 (R12)
グリーンキーパーの人数	(R6) 36人	⇒ 45人

(主な取組)

- 各地区や小学校への花苗等の配布を通じ、地域の緑化を推進します。
- 地域の緑化を担う市民ボランティアの育成を図ります。
- 中山間地の美しい景観を活用したキャンプ場等を誘致します。

★ 協働の視点 (市民・事業者等の役割)

市民・団体	地域の緑化推進活動への積極的な参加
-------	-------------------



↑ 行田公園のハナショウブ

政策の柱
政策基盤

輝く滑川

政策
27

地球温暖化対策の推進

主管課

生活環境課

関係課

DX推進課

SDGs 関連分野



※ 基本構想 第3章「まちづくりの基本理念・将来ビジョンと政策」
「4 政策体系について（基本計画とのつながり）」表中にある
「政策27 環境保全対策の推進」は、本政策に読み替えるものと
します。

★ 政策の目指す姿

環境保全の意識が醸成され、カーボンニュートラルを暮らしの中に取り入れた
持続可能な生活環境と豊かな自然環境が保たれている。

★ 政策の達成目標

指標名	現状値 (R4)	目標値 (R12)
市内の二酸化炭素排出量の削減率 (2013年度比)	▲37.2%	⇒ ▲53%

★ 政策の基本方針（課題と方向性）

現状・課題	方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 近年、異常気象が多発しており、地球温暖化の進行がその一因として考えられています。これを食い止めるため、再生可能エネルギーを活用した循環型社会の構築が世界的に進められています。 ● 国が令和2年10月に「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにし、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言したことを受けて、取組の推進が求められています。本市も令和5年9月に、2050年までに市内の温室効果ガス排出量を実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。 ● 地球温暖化が原因とみられる気候変動の影響により、異常気象が多発する中で、海と山に囲まれた豊かな自然環境を次世代に引き継いでいく必要があります。 ● 本市のごみ総排出量は減少傾向にありましたが、令和元年度は増加しています。 ● 既存住宅の多くは機密・断熱性能が低く、良質な住環境とは言えないだけでなく、冷暖房のエネルギーロスが大きいことからCO₂を多く排出します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギーの活用や導入促進等のカーボンニュートラルに資する取組の推進により、市内での二酸化炭素排出量を削減し、ゼロカーボンシティの実現を目指します。 ● 廃棄物の削減を推進し、ごみ総排出量の減少に努めます。 ● 市民への環境教育を推進するとともに自治会や各種団体等が行う環境美化活動を支援します。 ● 二酸化炭素の吸収源となる豊かな自然（森林や藻場）の保全に取り組み、自然に親しむ機会を提供することで、自然に関心を持ち保護する意識を醸成します。 ● 豊富な地下水や湧水を将来にわたって引き継いでいくため、市民や事業者と連携して水循環の保全を図ります。 ● 不法投棄による海洋プラスチックごみへの対策が特に求められており、市民、事業者、行政が一体となって取り組みます。 ● プラスチック資源の一括回収を進めます。 ● ごみ収集の有料化に向けての検討を行います。 ● 既存住宅の住宅性能を上げる改修を促進することで、快適な住環境整備と地球温暖化への対策を図ります。

★ 政策の個別計画・関連する計画

個別計画	一般廃棄物処理計画、滑川市地球温暖化対策実行計画、滑川市地域新エネルギービジョン
------	------------------------------------------

★ 政策の内容

① 廃棄物削減の推進と再生可能エネルギーの利活用

指 標 名	現状値	目標値 (R12)
家庭系ごみの排出量	(R6) 672g/人・日	⇒ 650g/人・日
家庭系ごみの資源化率 (資源ごみ排出量/ごみ排出量)	(R6) 16%	⇒ 22%

(主な取組)

- 廃棄物の削減を推進するため、市広報やホームページを活用し、3R（リデュース・リユース・リサイクル）にリフューズ（不要なものを断る）を加えた4Rに関する情報発信に努め、市民の意識向上を図ります。
- 再生可能エネルギー等の新たなエネルギーの利活用について、調査研究を進めます。
- 「滑川市地球温暖化対策実行計画」に基づき、温室効果ガスの排出量削減等を推進します。

② 環境教育の推進と環境美化活動の支援

指 標 名	現状値	目標値 (R12)
環境美化活動参加者数	(R6) 8,100人/年	⇒ 9,900人/年

(主な取組)

- 環境フェアの開催やこどもエコクラブの実施等、引き続き環境教育を推進するとともに、自治会や各種団体等が行う環境美化活動を支援し、市民や事業者の環境保全に対する意識を醸成します。

③ 良好な大地と水循環の保全

指 標 名	現状値	目標値 (R12)
海洋プラスチックごみに関する 出前講座受講児童数	(R1～5計) 225人	⇒ 500人 (5年間)

(主な取組)

- 海や川、山等、自然に親しむ行事を通じて、自然の素晴らしさや大切さを伝え、自然環境保全の意識を醸成します。
- 豊富な地下水や湧水を将来にわたって引き継いでいくため、本市の地下水の現況を広く周知し、市民や事業者と連携して水循環の保全を図ります。
- 市広報、ホームページ及び啓発チラシ等を通して、市民や事業者へ不法投棄防止を啓発します。
- 海洋プラスチックごみの対策について、関係機関との情報交換や協力・連携に努めます。また、小学生を対象に海洋プラスチックごみに関する出前講座を実施し、子どもたちの寛容保全に対する意識の向上を図ります。

④ 温室効果ガス排出量の削減

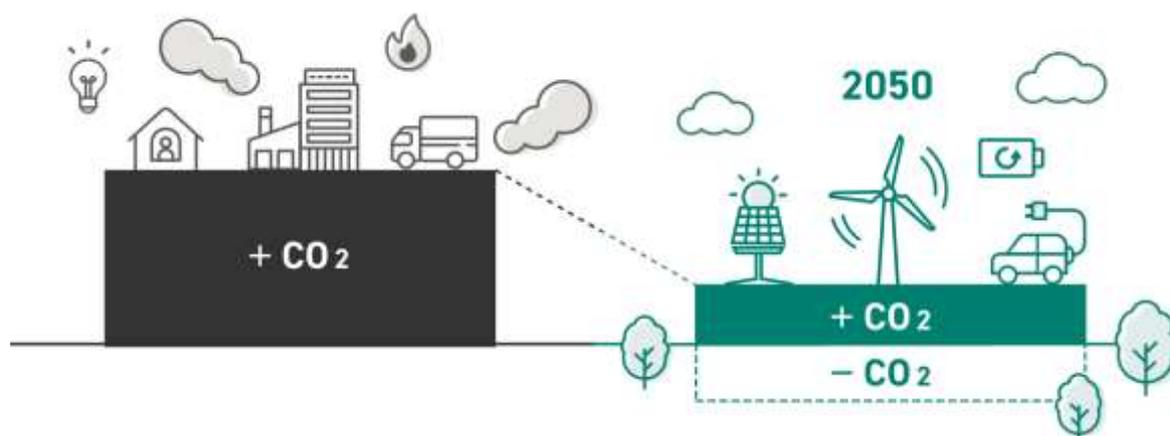
指標名	現状値	目標値 (R12)
市内からの温室効果ガス排出量	(R4) 346千t-CO ₂	⇒ 258千t-CO ₂
太陽光発電設備を設置した公共施設数	(R6) 7施設	⇒ 22施設

(主な取組)

- 「滑川市地球温暖化対策実行計画」に基づき、再生可能エネルギーや省エネルギー設備の導入促進等に向けた啓発を行います。
- 中小企業等のGX人材の育成を支援します。
- 市民の「デコ活」推進を支援します。
- 公共施設へ再生可能エネルギーを積極的に導入（設備導入や再生可能エネルギー由来の電力への切替等）します。
- 公共施設のLED化を推進します。

★ 協働の視点 (市民・事業者等の役割)

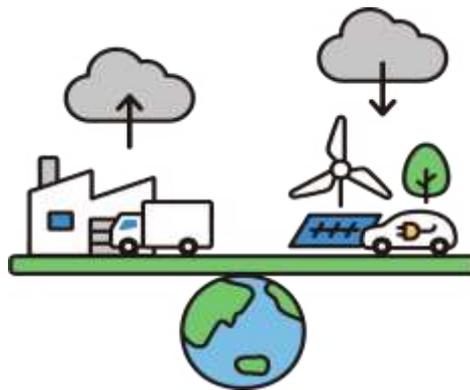
市民・団体	環境美化活動への積極的な参加 自然に親しむ行事や自然環境を保全する活動の実施 住宅への再生可能エネルギー等設備の導入 「デコ活」の実施
事業者等	環境美化活動への取組 自然を活用したイベントの開催 工場・事業所等への再生可能エネルギー設備の導入 再生可能エネルギー由来の電力プラン等への切替 省エネ性能が高い設備への段階的な転換 クールビズ・ウォームビズの推進



↑ ゼロカーボンシティ イメージ図 (出典:環境省脱炭素ポータル)



↑ 環境フェア



↑ 上空から撮影した滑川市

政策の柱
政策基盤

輝く滑川

政策
28

SDGs 未来都市の実現

主管課

DX推進課

関係課

全課

SDGs 関連分野



★ 政策の目指す姿

経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組み、「誰一人取り残さない」社会が実現されている。

★ 政策の達成目標

指標名	現状値 (R6)	目標値 (R12)
滑川市SDGs宣言を行った企業・団体等の数(累計)	14団体	⇒ 110団体

★ 政策の基本方針(課題と方向性)

現状・課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化や人口減少が進んでおり、社会の支え手の減少が深刻化していくことで、経済規模の縮小、労働力不足、社会保障制度のバランス崩壊、自治体財政の危機に陥り、今後は社会的・経済的な課題が深刻化することが予想されます。

方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域資源を活用しながら、民間企業など多様なステークホルダーとの連携により、「2030年のあるべき姿」として掲げた将来像の実現を目指します。

★ 政策の個別計画・関連する計画

個別計画	滑川市SDGs未来都市計画



★ 政策の内容

SDGsに関する取組みの推進

指 標 名	現状値	目標値 (R12)
SDGs 普及啓発回数 (イベント開催・支援、広報等での情報発信等)	(R6) 3回/年	⇒ 12回/年

(主な取組)

- 持続可能な社会の実現に向け、固有の地域資源を発掘、活用します。
- 地方創生につながる「自治体SDGs」に戦略的に取り組むことで、市の「環境」「社会」「経済」の3つの価値の引上げに努めます。
- 市が一丸となってSDGsの取組を推進するため、普及啓発イベント等を開催します。

★ 協働の視点 (市民・事業者等の役割)

市民・団体	SDGsのゴール達成に向けた積極的な取組
事業者等	SDGsのゴール達成に向けた積極的な取組及び啓発



↑ SDGs未来都市選定証



↑ SDGsワークショップ

政策の柱
政策基盤

輝く滑川

政策
29

公民連携による
まちづくりの推進

SDGs 関連分野



主管課

公民連携課

関係課

市民課、福祉課

★ 政策の目指す姿

行政と市民や団体、事業者、高等教育機関、ボランティア等、多様な活動主体が相互に連携・協力し、地域課題に対応できている。

★ 政策の達成目標

指標名	現状値 (R6)	目標値 (R12)
公民連携により実施した事業数	7件/年	⇒ 7件/年

★ 政策の基本方針（課題と方向性）

現状・課題	方向性
<ul style="list-style-type: none"> 多様化・高度化する地域課題を解決するためには、行政と多様な主体が協力して取り組むことが必要ですが、協働の効果や内容についての周知が進んでいない状況です。 人口減少や高齢化・核家族化、ライフスタイルの変化等により、地域社会におけるつながりの希薄化が進んでいます。 少子高齢化、働く高齢者の増加等により、地域活動の担い手の確保が困難になっており、ボランティアの重要性がこれまで以上に高くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働の必要性や効果を広く周知し意識の醸成に努めるとともに、支援制度の充実やまちづくり活動への参加機会を設け、行政と自治会や各種団体、事業者、教育機関等、多様な主体が連携し、それぞれの持つ力を発揮できる体制の構築を図ります。 住民間交流の活発化と地域の活性化を図るため、地域コミュニティ強化への取組を推進します。 ボランティア意識の醸成を図るとともに、地域における幅広い活動を支援する体制を整備します。 公民連携の手法により、ほたるいかミュージアム周辺のベイエリアや漁港周辺、東福寺野自然公園等の整備を検討します。（再掲）

★ 政策の個別計画・関連する計画

個別計画	滑川市地域福祉計画 滑川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
関連する計画	滑川市行政改革大綱実施計画

★ 政策の内容

① 協働・共創のまちづくり

総合戦略 ②

指標名	現状値	目標値 (R12)
なめりかわ未来創生事業の件数	(R6) 6件/年	⇒ 13件/年
連携協定の締結数	(R6) 15件	⇒ 30件

(主な取組)

- 協働・共創のまちづくりの実現に向けて、先進的な取組事例の紹介等により、まちづくりの参加意識の醸成を推進します。
- 地域住民等が主体的に行う魅力ある地域作りの活動を支援します。
- 目標設定の段階から、市民や企業、大学、行政等が連携し、異なる視点や価値観のもと意見を出し合いながら新たなまちの魅力を共に創り上げていく仕組みを検討します。
- 民間事業者の技術やノウハウを最大限活用しながら、地域課題の解決を図ります。
- 市民主体のまちづくり・コミュニティの強化を図るため、新たな活動主体の育成を推進します。
- まちづくり共創会議において、新しい滑川の実現に向け、意欲のある市民、企業と対話を重ね、共に考えます。
- 今後の公共施設のあり方について、公民連携による民間事業者の活用を模索します。

② ボランティア活動の推進

総合戦略 ③

指標名	現状値	目標値 (R12)
ボランティア登録者数	(R6) 798人	⇒ 1,000人

(主な取組)

- ボランティアを身近に感じ、個々の意欲と能力に応じ気軽に活動できるよう、啓発を行います。
- ボランティアのニーズ調整や、広報、活動支援等、総合的なボランティアの推進を行うボランティアセンターの充実を図るとともに、幅広い分野でのボランティア活用を推進する仕組みを検討します。
- 各種団体とともに、時代のニーズに対応したボランティア活動に取り組みます。
- 多様な情報のマッチングを推進するため、ICTの効果的な活用を検討します。

★ 協働の視点 (市民・事業者等の役割)

市民・団体	地域活動への積極的な参加 自分にできるボランティア活動への取組
事業者等	地域活動に対する協力 従業員のボランティア活動への参加促進 公民連携事業の実施検討





政策
30

観光の振興

主管課

水産観光課

★ 政策の目指す姿

観光資源の活用とPRにより交流人口が増加し、まちに賑わいが生まれている。

★ 政策の達成目標

指標名	現状値 (R6)	目標値 (R12)
観光客入込数	21万8千人	⇒ 35万人

★ 政策の基本方針（課題と方向性）

現状・課題	方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● コンベンション等での本市の宿泊施設利用者が少ない傾向にあります。 ● 観光客のニーズが多様化してきており、「ホテルイカ」を主としながらもホテルイカ以外の本市の観光資源をPRし、選択肢を多く設けることが求められています。 ● 県内では近年、外国人観光客が増加しています。 ● 多くのイベント等が開催され、市内外から大勢の人が訪れています。 ● 観光施設の集客は、コロナ禍以前に回復しており、今後もホテルイカを中心に、PR活動等に努めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● インバウンド事業に積極的に取り組み、交流人口の増加を目指します。 ● コンベンションやスポーツ・文化合宿を誘致し、観光施設等への誘導に努めます。 ● 既存の観光資源・観光施設等を活かし、コースの設定や新たな展示・コンテンツの充実を図るとともに、計画的な設備等の更新に努めます。 ● 観光遊覧船「キラリン」や民間の観光資源を活用し、他施設との連携による相乗効果や富山広域連携中枢都市圏等との広域連携の推進に努めます。 ● 既存のイベント以外にも、滑川の観光資源を最大限に活用した体験型イベントや企業見学等を実施・支援等を行い、交流人口を増やします。 ● 滑川市観光パンフレットを新規に作成する等、県外や海外からの観光客誘致に努めます。 ● ほたるいか海上観光について、観光船2隻体制での運用を目指して取り組んでいきます。 ● ほたるいかミュージアム開館30周年を控え、展示内容のリニューアルを図ります。 ● 公民連携の手法により、ほたるいかミュージアム周辺のベイエリアや漁港周辺、東福寺野自然公園等の整備を検討します。（再掲）

★ 政策の内容

① 誘客とPRの推進

総合戦略 ②

指標名	現状値	目標値 (R12)
ほたるいかミュージアムの入館者数	(R6) 69,513人/年	⇒ 71,000人/年
富山湾岸クルージングの乗船者数	(R6) 5,820人/年	⇒ 7,500人/年
インバウンドによる宿泊者数 (延べ)	(R6) 4人/年	⇒ 500人/年

(主な取組)

- ファムトリップや現地旅行会社等へのPR活動等を実施し、インバウンド増加に努めます。
- 市内外の宿泊施設や観光案内所、観光施設、旅行会社等へのPR活動を一層充実し、連携を強化します。
- 市内及び他市町村の観光資源と連携した新観光商品の開発を支援します。
- 既存の観光施設の新たな展示やコンテンツの充実を図るとともに、計画的な設備等の更新を行います。
- 新たな観光資源の掘り起こしや磨き上げを行います。
- 市主催のイベントが、より魅力のある充実したイベントになるよう毎年見直し、また、地域活性化等イベント開催支援事業の活用を推進し、イベントの開催を支援します。
- ふるさと龍宮まつりやなめりかわランタンまつり等の市内のみならず、市外にも周知されているイベント等への支援を強化します。
- ほたるいかミュージアム、海上観光の更なる魅力向上への取組を検討します。
- 周辺市町村と連携した富山湾クルージングの新規航路と観光プランの充実を図ります。
- 漁港周辺の再整備について検討します。
- 「富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏」におけるインバウンド対策や広域プロモーションによる周遊観光を強化します。

② 受入れ体制の強化

総合戦略 ②

指標名	現状値	目標値 (R12)
宿泊者数 (延べ)	(R6) 19,870人/年	⇒ 25,000人/年

(主な取組)

- 旅行業者や宿泊業者等と連携して、宿泊者数の増加を図るとともに観光施設への誘導を行います。
- 観光案内員の配置、観光案内看板やガイドマップ等の多言語化・更新、ガイドボランティアの育成を行うことで、分かりやすい観光案内を行います。
- 市内の観光資源の周遊性の向上を目的に導入したレンタルサイクルの周知を行います。

★ 協働の視点 (市民・事業者等の役割)

市民・団体	「おもてなし」の心を持った観光客等への対応イベント等への積極的な参加
事業者等	積極的なPRや事業者間連携